



友愛の森(二中だより)



学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和6年4月8日発行

令和6年度 第1学期始業式 式辞より(抜粋) ～変化を「前向き」にとらえ、「幸せ」になる～

校長 望月 俊伸

新2・3年生の皆さん、改めて進級おめでとうございます。

いよいよ令和6年度のスタートです。仲の良い友達と離れて、不安でいっぱいという人もいるかもしれません。私も中学校時代、どちらかという人見知りで、新しい友達を作るのが大の苦手でした。ですから、新年度のこの時期はいつも不安だらけの日々を過ごしていました。それでも、早く新しい環境に慣れるために、心がけていたことがあります。

1. 少しだけ勇気を出して自分の方から話しかける。
2. 人の良いところを見つけようとする。
3. 自分がしてほしいことを人にもしてあげる。



皆さんの中で、これから新しい人間関係を築いていく時、仲間はずれにされたり、無視されたり、悪口を言ったりしてほしい人はいますか？誰もいませんよね。こうしたことは「いじめ」です。誰も望まないことです。絶対にしてはいけません。むしろ、積極的に声をかけたり、仲間に入れてあげたり、この時期だからこそ意識して人に優しく接するようにしてほしいのです。こうすることで、今年度皆さんに身に付けてほしい資質・能力の1つ「コラボレーション力」が高まるとともに、「幸せな二中」へと近づくことができるのだと思います。

今年度も**学校教育目標**は「二中文化を創造する生徒」です。二中文化の肝は「生徒主体」です。自分たちの問題を、自分たちで見つけ、自分たちで話し合っ、自分たちで解決していく。やらされるのではなく、みんなで決めたことをみんなで守り、みんなで実行する。このことはとても大事なことですし、自分の意思で決めることは、どうやら人の幸せにも関わっているようです。

ここに興味深い研究結果があります。西村和雄氏（経済産業研究所）・八木匡氏（同志社大学）による『幸福感と自己決定 ―日本における実証研究』（2020年6月）です。この研究では、2万人の日本人に調査を行い、所得、学歴、健康、人間関係、自己決定を変数とし、幸福感との関係を分析しました。この研究では、「自己決定」と「前向き志向」の間には比例の関係が見られ、「自己決定」と「不安感」の間には反比例の関係が見取れたそうです。この検証結果から、人々の幸福感に影響を与える変数として、健康、人間関係に次ぐものとして、所得、学歴よりも自己決定が強い影響を与えていることが明らかになりました。

二中文化である挨拶や黙働などについても、人から言われるからやるのではなく、自分でやると決めてやる方が、同じことをするのでも、その価値や幸福感が違います。人生の中の進路決定のような大きな選択はもちろんですが、日常生活の中にある授業や生徒会活動、部活動、家での手伝いなどについても、自分の意思で決めて行うようにすれば、取り組む過程も、出される結果もきっと変わってくるはずです。

そんな1学期になることを期待するとともに、皆さんの益々の成長と活躍を願っています。

今年度も、職員一丸となり、すべての生徒が可能性を見いだすことができるよう、教育活動の推進に尽力してまいります。保護者の皆様、地域の方々のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

1年間、どうぞよろしくお願いたします。

令和6年度が始まりました

4月5日に87名の新生を迎え、2年生82名、3年生102名、全校生徒271名と、教職員37名で令和6年度がスタートしました。

以下は代表生徒の決意です。(抜粋)



入学式 新生代表 野牧奈央さん

今日は、私たち新生のためにこのような素晴らしい入学式を行っていただきありがとうございます。

今日から始まる新たな仲間との中学校生活には、不安な気持ちを抱く反面、どんなことが待っているのだろう、と、期待と希望に胸を膨らませています。

中学校で私が楽しみにしていることが2つあります。1つ目は仲間とともに学習することです。授業内容が難しくなるので、今まで以上に授業に集中していきます。2つ目は初めての部活動です。活動を通して礼儀を学び、充実した時間を過ごしたいと思っています。

始業式 2年生代表 柏本菜菜さん

今日からの私たちにとって、昨年度と違うことは、後輩ができることです。1年生の手本となれるように挨拶や黙想などをしっかりとできるようにしていかなければならないと思っています。学習面では、ノートは、誰が見ても「わかりやすい」と言われるようにしたいです。また、積極的に発表することも意識していきます。部活では、時間を大切に自分から早く行動できるようにしていきます。帰ってからも自主練習をして上達できるようにします。5月の「自然教室」では、実行委員として行事を大成功にできるように、計画的にしっかりと準備していきたいです。

始業式 3年生代表 立石美咲さん

2年生を振り返ると、テスト期間は毎日机と向き合い、学習できたことと、学年委員長としての活動が良かった点として挙げられます。一方、授業ではノート作りに力を入れすぎて発表回数が減ってしまいました。また、学年では、生徒同士での注意喚起が不足していたことが反省点です。3年生の目標は、授業に積極的に参加し、毎日を大切に、先輩たちが築いた学校を引き継ぎ、素晴らしい学校を作ることです。これにより、中学校生活の最後の年を充実させ、悔いのない一年にしたいと考えています。

始業式 5・6組代表 早坂奈都生さん

ぼくが今年頑張りたいことは3つあります。1つ目は、2年生の大きな行事である自然教室を成功させることです。仲間と協力して、万全な準備で本番を迎えたいです。2つ目は福ろう製作所の切り絵です。ぼくはあまり得意ではないけれど、コツコツ取り組みたいです。3つ目は授業で話をしっかり聞くことです。僕は1年生の時、大事な話を聞き逃して、授業が止まってしまったり、友達に迷惑を掛けてしまったりしたので、話を集中して聞くことを頑張りたいです。1年生が入学してぼくは先輩になります。それがとてもうれしいです。1年生にとって単なる先輩ではなく、お手本になれるように頑張りたいと思います。

生徒会長 佐野菜々美さんの歓迎の言葉 (抜粋)

今日、新たな中学校生活の第一歩を踏み出す新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同、皆さんの入学を心待ちにしていました。皆さんが登校する姿を見て、2年前、私が入学した日を思い出しました。私も、慣れない環境に初めは戸惑うこともありましたが、しかし、仲間とたくさんの時間を過ごしていくうちに、忙しい毎日の中でも、歴史ある富士宮第二中学校の素晴らしさに気づき、中学校での生活を心から楽しむことができると思います。

特に日々の部活動や生徒会活動は先生方や先輩から、礼儀や中学生としての在り方など、様々なことを学ぶことができます。また、皆さんの思い出に刻まれるであろう「希翔祭」。希翔祭は二中そのものと言ってもよいほど、二中らしさにあふれた二中最大の行事です。「二中らしさ」は「生徒主体」という言葉に置き換えることができます。希翔祭は、この「生徒主体」という言葉を軸に生徒一人一人が役割をもち、それぞれの個性を発揮して企画・運営に携わり、生徒全員で創り上げます。誰一人として、欠けてはいけません。クラス、学年の垣根を越えた仲間とともに全力を尽くして掴んだ成功、中学生としての一体感、たくさんの喜びと感動は皆さんの心に残り、決して忘れられないものとなります。

一度きりの中学校生活、一日一日を大切に、何事にも全力で挑み、全力で楽しんでください。そして、家族、地域の方々、先生方、そして皆さんの隣にいる仲間。何気ない日々の中でそういった方々への感謝の気持ちを大切にしてください。